

新発田税務署長賞

税金という支え合い

新潟県立 新発田商業高等学校 三年 山 鳥 優 月 さん

私は、小学生の頃税金の使い道を知るために小学生でも理解しやすいように作られた内容のパンフレットを見たことがある。そのパンフレットには、もし税金がなかったらというテーマがあり、税金がなくなったときの社会の変化が分かりやすくイラスト付きで載っていた。例えば、道路が整備されなくなり荒れた状態のまま放置されることや救急車を呼ぶのにお金がかかること、そこら中にゴミがポイ捨てされていることなどが載っていた。これらの社会の変化の中で一番私が危機に感じたのは、医療関係のことである。

私は、アレルギー性鼻炎になってから前よりも医者に行くようになった。診察代は530円で薬代は無料だった。私が中学生のころ、医者の代金が安いのは税金で負担されているからと知った。このことから私は誰かが払ってくれる税金によって毎回助けられていたのだと思った。確かに、医者に行く頻度は人それぞれであまり行かない人にとっては必要ないと考える人もいるかもしれない。しかし医療に税金が使われなくなったら救急車を呼ぶのにお金がかかるだけではないのである。日本にいる人は、医者に行けば今よりもはるかに高額な代金を支払うことになる。もし、診察料や薬の代金が税金によって負担されることがなくなったら、今よりも病気が日本中に広がり、医者に行ける人達が限られることが日常的に起こるようになる。

これらのことから、税金は人の命を平等に大切にするためにあるのではないかと考えた。医療だけではなく税金はさまざまなことに使われていて、それはすべて日本にいる人達にとって住みやすい国や安全な場所にするために使われているのである。税金があることによって助けられている人が多くいるのである。

最後に、税金は国民がお互いに払い合って成り立っている。これは、一種の支え合いの形だと思う。国民の人が一生懸命働いて、もらった給与から税金が支払われていることをお互い理解するべきであり、これから働く世代にも伝えていくべきである。

今の日本があるのは、働いている国民の皆さんが維持してきたものだということを知り、病気になったら医者に行けることや、道路、水があることなどが当たり前ではないと思ってほしい。これらがあることは、誰かの頑張りによって実現できていることだと理解してほしい。私たちの生活は税金という支え合いのもとで成り立っていることを知って、国民がお互いに尊重し合える関係になればもっとより良い社会にすることができると考える。